

沖泊道（松山）

石見銀山と温泉津港および沖泊港を結ぶ曲がりくねった道は、山々や鬱蒼とした森を通して日本海へと続きます。毛利氏が銀山の支配権を手中に収めた **16 世紀後半**に作られたこの道は、すぐに石見銀山の交通における主要道となりました。あらゆる種類の物資が港から銀山周辺の集落に運ばれる一方で、銀山で採掘・精錬された銀は、質素な荷車に載せられ、あるいは牛に引かれて逆方向に輸送されました。温泉津沖泊道は当初未舗装の道路でしたが、江戸時代（**1603 年～1867 年**）にその一部が舗装され、通行がしやすくなりました。この目的のために使われた採石場は、現在でもこの道沿いに見ることができます。銀がこの道に沿って海岸まで運ばれたのは、**1560 年代初めから 1600 年代の最初の数年**までだけでしたが、**1800 年代後半**まで銀山への主要物流経路として残り、外部の影響を銀山にもたらししました。現在でも、大森から温泉津および沖泊まで、全 **14 キロ**の道を歩くことができますが、一部区間では大雨の後に横断が難しくなることがありますのでご注意ください。